

I. 研究開発の概要

1. 研究開発の概要

齊藤真子

1 研究開発課題

- (1) 「高大の連携」を生かした「青年期のキャリア形成」
－総合的学習の発展を軸とした併設型中高一貫カリキュラムの開発－
- (2) 研究開発の実施期間
平成12年4月1日から平成15年3月31日まで

2 研究のねらい

少子高齢化の進展とともに成熟社会における学校教育が問い直されている。「個性を伸ばし社会的自立と将来への目的意識」を育てることが中等教育の大きな課題となっている。その課題のメインとなるキーワードを「青年期のキャリア形成」とし、サブテーマとして「高大の連携」と「総合的学習の発展」を加え、3つを統合した新しい併設型中高一貫カリキュラム（1-2-2-1制）を開発することが課題に応える学校づくりと考え、上記のテーマを設定した。「キャリア形成」を従前の進路観や職業観として捉えるのではなく「高校入試の重荷をはずした中学教育」と「大学との連携を生かした高校教育」とをつなぐもので、将来に向けての自己実現を目指す力

の育成として捉え、中高を通して全ての教育活動の中で展開されていくべきであると考えたからである。

- ①「青年期のキャリア形成」の視点で、青年期の心理、発達的面を（生きる力・心と身体）の教育として）教育学的見地から捉え直す。つまり、中高生に自分の「心と身体」を客観的に見つめ直し、自分を再発見し「自分の将来の進路に目的意識を持たせ」将来における自己実現をめざす力を育てる中高のカリキュラムのあり方を研究し開発する。
- ②中高6カ年の中で、生徒一人一人が明確な将来像を持てるような発展的な総合的学習のあり方の研究を行なう。本校が平成7～9年度にかけて取り組んだ総合的学習「総合人間科」の発展的展開である。
- ③上記の2つをリンクするものとして「大学との連携」を様々な形で試みる。「高大の連携」は中等教育においてキャリア形成上最大の課題である。名古屋大学と同一キャンパスにある本校の立地条件を生かし「高大の連携」の新しいあり方をめざし実証的な研究を行なうとともに「新しい中高一貫教育のあり方」を研究し開発する。

3 研究計画

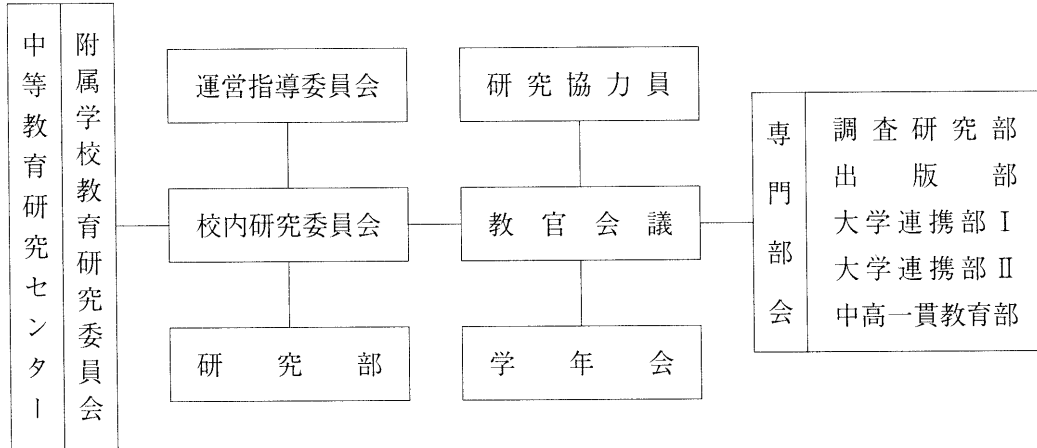
年次	研究内容等
平成12年度 (第1年次)	<ul style="list-style-type: none">1 「キャリア形成」における生徒の実態把握 生徒の学校生活の現状とその実態を、青年期の心理・発達的面とキャリア形成を中心に本教育学部とともに調査研究し、教育学的見地からの実態把握をする。<ul style="list-style-type: none">①「青年期のキャリア形成」の視点から名古屋大学の研究者と問題点の検討②高大の連携のあり方についての課題の検討2 「心と身体」の教育を中心とした中高一貫カリキュラム（1-2-2-1制）の作成<ul style="list-style-type: none">①教育学部の専門家とともに「心と身体」である「ソーシャルライフ」の授業展開の試み 中学1年生②学年課題と年間指導計画案の作成3 併設型中高一貫カリキュラムの内容検討

<p>平成13年度 (第2年次)</p>	<p>1 併設型中高一貫カリキュラム (1-2-2-1制) の試行と実践</p> <p>①「心と身体の教育」を中心とした「ヒューマンプログラム」の実施 中学1・2年生</p> <p>②選択プロジェクトの実施 中学2・3年生 異学年小クラス 9教科 10科目</p> <p>③新教科群の実施 高校1年生 「心と身体の科学」(前期) 「自然と科学」(後期) (国際コミュニケーション学)「共生と平和の科学」は次年度高2で)</p> <p>④総合的な学習「総合人間科」の発展的展開 中学1年生から高校3年生まで</p> <p>2 学校生活全体において併設型中高一貫カリキュラムと生徒の諸活動との結びつきを重視する。</p> <p>3 生徒の変容を具体的に把握し成果と問題点を明らかにする。</p> <p>4 多様な学習方法を試みることで指導方法の改善を図る。</p>
<p>平成14年度 (第3年次)</p>	<p>1 「併設型中高一貫カリキュラム」(1-2-2-1制) 全般の総括と評価</p> <p>①「心と身体の教育」を中心とした「ヒューマンプログラム」の実施と評価 中学1・2・3年生 「ソーシャルライフ」 高校1年生 「ソーシャルライフ」</p> <p>②選択プロジェクトの実施と評価 中学2・3年生 異学年小クラス 9教科 11科目</p> <p>③新教科群の実施と評価 高校1年生 「心と身体の科学」(前期) 「自然と科学」 (後期) 高校2年生 「国際コミュニケーション学」(前期) 「共生と平和の科学」 (後期)</p> <p>④総合的な学習「総合人間科」を大学との連携により発展的に展開</p> <p>(1) 高大の連携を生かした併設型中高一貫カリキュラムの系統性 (2) 新教科と科目の評価 (3) 「青年期のキャリア形成」との関連で進路指導を構築 (4) 生徒の変容を具体的に把握し成果と問題点を明らかにする。</p> <p>2 「高大の連携」による新しい中高大一貫教育のあり方 「学びの杜」講座 個別学習アシスト教室</p>

4 研究組織の概要

(1)研究体制

校長・運営委員・研究主任・研究部員及び選出委員によって構成される教育研究委員会により、教育研究開発の推進を行なう。



(2)運営指導委員

氏名	勤務先	職名	備考（専門分野等）
大谷 尚	名古屋大学	教育学部教授	教育情報学
吉田俊和	名古屋大学	教育学部教授	社会行動学
的場正美	名古屋大学	教育学部教授	教育方法学
寺田盛紀	名古屋大学	教育学部教授	技術職業教育学
田畑 治	名古屋大学	教育学部教授	発達援助心理学
植田健男	名古屋大学	教育学部教授	教育経営学
金井篤子	名古屋大学	教育学部助教授	発達援助臨床学
田中宣秀	名古屋大学	教育学部教授	人材開発科学
松下晴彦	名古屋大学	教育学部助教授	人間形成学
池内 了	名古屋大学	理学部教授	天体物理学
若尾祐司	名古屋大学	文学部教授	西洋史学
根本二郎	名古屋大学	経済学部助教授	計量経済学
坂柳恒夫	愛知教育大学	教育学部教授	職業指導論
小嶋秀夫	京都学園大学	人間文化学部教授	生涯発達心理学
高羽国広	中日新聞社	取締役	一般の有識者
桜井正一	愛知県立中村高校	校長	教育者
橋本松代	名古屋市立見付小	校長	教育者
小川克郎	元名古屋大学	名誉教授	学識経験者
高田勇夫	歯科医師		一般の有識者

5 併設型中高一貫カリキュラムの構造図

